

報告第18号

教育委員会事務の点検及び評価について

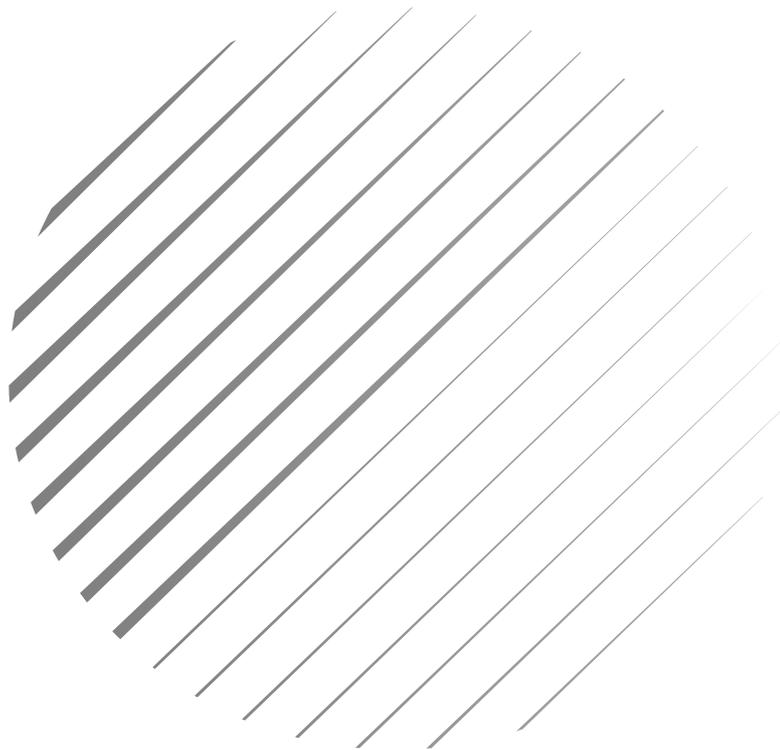
教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成したので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条第1項の規定により、報告する。

令和4年12月6日提出

柳井市教育委員会

教育長 西元良治

**令和4年度
教育委員会点検・評価報告書
(対象：令和3年度事業分)**



**令和4年11月
柳井市教育委員会**

目次

1 趣旨	… 1 頁
2 前回の学識経験者による知見（全般）と反映	… 1 頁
3 点検及び評価の実施	… 2 頁
4 点検及び評価	
(1) 事務事業の評価結果集計（全体）	… 3 頁
(2) 事務事業の評価結果集計（箇所別）	… 3 頁
(3) 具体的施策と個別評価票	
愛の1 ～ 愛の7	… 5～14 頁
夢の1 ～ 夢の6	… 15～22 頁
志の1 ～ 志の8	… 23～33 頁
4-(1) ～ 4-(5)	… 34～39 頁
(4) 令和3年度重点事項における個別評価	… 40 頁
<<学校教育>>	
<<社会教育>>	
<<スポーツ・文化>>	
<<環境整備>>	
5 学識経験者の知見	… 45 頁
(1) 点検及び評価全般	
(2) 取組ごとの知見	
6 今後の取組	… 47 頁

※文中、読みやすさを重視するため、「新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策」を「感染症対策」と略して表記している旨ご了承ください。

1 趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条の規定に基づき、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならないこととされています。

柳井市教育委員会では、法の規定に則り、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たすため、令和3年度の教育委員会の取組の執行状況について、教育に関し学識経験を有する者の知見も踏まえた上で、点検及び評価を行いました。その結果をまとめましたので、報告します。

2 前回の学識経験者による知見(全般)と反映

(1) 感染症対策により、中止又は延期になった場合の、評価の仕方に工夫が必要である。

≫ 前回は、感染症対策として事業の中止又は縮小等により計画通り実施できない事業が複数発生したことから、影響があったものを別枠として評価しました。しかし、長引くコロナ禍において、実施判断の線引きは困難であり、また、別枠で評価することの意義が図り難いことから、今回は、そういった状況下であっても、どう事業展開を図り、目的に近づけていくか、その手法も含めての評価を行うこととしました。引き続き、特段の事情が発生した場合での評価方法について研究していきたいと考えます。

(2) 柳井市教育振興基本計画（第2期）のアンケート結果において、いじめ防止や不登校への対応の満足度が低い傾向であることから、増加している不登校への対応など取組を強化されたい。同じく評価の低い芸術・文化の振興においても一層注力されたい。

≫ いじめ防止や不登校への対応については、「令和3年度柳井市の教育計画」の重点事項に掲げ、教職員の指導力の向上など、「志の6」の施策として取り組みました。芸術・文化の振興についても重点事項の一つに掲げ、サンビームの活用及び独歩生誕150年展など、「愛の4」の施策として取り組みました。

(3) 点検・評価後の事業効果についても確認されたい。

≫ 年度ごとの点検・評価のため、短期視点での成果と有効性の内容にとどまり易い部分はありますが、ご指摘の通り、長期視点において継続性を獲得できる効果についても、併せて確認に努めていきたいと考えます。

(4) スクール・コミュニティセンターは、一層の充実に向けて取り組まされたい。

≫ 令和3年度の重点事項に掲げ、スクール・コミュニティだよりの発行や連携支援など、「夢の2」の施策として取り組みました。

3 点検及び評価の実施

(1) 点検及び評価の対象とした取組

柳井市は、平成 27 年 11 月に「柳井市教育大綱・柳井市教育振興基本計画」（計画期間：平成 28 年度～令和 2 年度）を策定し、教育目標を「愛・夢・志をはぐくむ教育」と定め、サブタイトルを「スクール・コミュニティによる教育のまちづくりの推進」とし、その実現に取り組んでまいりました。

また、令和 3 年 1 月には、それまでの教育を取り巻く環境や課題の変化を考慮した第 2 期の柳井市教育大綱・柳井市教育振興基本計画（令和 3～7 年度）を策定し、新たに取り組んでいるところです。

本計画では、学校を中心に様々な年齢層の市民が交流を深め、新たな絆を生み出し、学校、家庭、地域が一体となった人づくり・まちづくりを推進することによって、教育目標の達成をめざすこととしています。

このたびの評価の対象とした取組は、この第 2 期柳井市教育大綱・教育振興基本計画に基づき、令和 3 年度に教育委員会が実施した事務事業のうち、「令和 3 年度柳井市の教育計画」に掲げた具体的な取組について点検及び評価を行いました。

(2) 点検及び評価の方法

個別評価票として、具体的な取組の成果と有効性について点検し、成果指標について下記の評価基準に基づく 1 次評価（内部評価）を行いました。

（成果指標の評価基準）

A：目的に向け、順調に取組を達成できた。	[100%以上]
B：取組における改善事項はあるものの、概ね目的を達成できた。	[65～99%]
C：目的の一部を達成できたが、取組の改善が必要である。	[35～64%]
D：目的の一部しか達成できず、取組の抜本的な改善が必要である。	[0～34%]

令和 3 年度においても、引き続き、感染症対策の影響から、事業の中止又は縮小等により計画通り実施できない事業が複数発生しました。

前回の令和 2 年度事業分の評価では、こうした感染症の影響を受けた事業は、別欄を設け集計したところですが、今回の評価では、その影響が長引く中において、どう事業展開をしていくかを、考え、取り組んできたかの経過と結果も含めての、特に別欄を設けない形での評価としています。

なお、点検及び評価の客観性の確保とその活用を図るため、教育に関し学識経験を有する者として教育委員会が委嘱した 3 人の委員による 2 次評価（外部評価）を実施し、「学識経験者の知見」として記載しています。

(3) 点検及び評価の流れ

事務事業の選定（柳井市の教育計画に掲げる具体的な取組）全 104 取組

- 1次評価（教育委員会：内部評価）
- 2次評価（学識経験者の知見：外部評価）
- 教育委員会会議での協議・議決
- 市議会への報告書提出及び公表

4 点検及び評価

(1) 事務事業の評価結果集計（全体）

評価対象年度	業務評価				
	A	B	C	D	計
令和3年度	19	5	3	4	31
構成比%	61.3	16.1	9.7	12.9	100.0

(2) 事務事業の評価結果集計（箇所別）

担当課	業務評価				
	A	B	C	D	計
教育総務課	2	1			3
学校教育課	13	1	1	1	16
生涯学習・スポーツ推進課	4	1	1	2	8
人権教育室		1			1
図書館		1			1
サンビームやな い				1	1
学校給食センター			1		1
計	19	5	3	4	31

(3) 具体的施策と個別評価票

愛、夢、志をはぐくむ教育

～ スクール・コミュニティによる教育のまちづくりの推進 ～

1 自分を愛し、人を愛し、地域を愛する教育の推進

～自己肯定感、他者肯定感、地域肯定感の育成～

愛の1
人権教育の推進

愛の2
生涯学習の推進

愛の3
青少年の健全育成

愛の4
芸術・文化の振興

愛の5
スポーツ・レクリエーション活動の振興

愛の6
歴史・伝統の継承と保護

愛の7
郷土教材の開発と地域人材による郷土学習

2 夢をはぐくむスクール・コミュニティづくりの推進

～学校、家庭、地域の連携による人づくり、まちづくりの推進～

夢の1
学校運営協議会の機能の強化

夢の2
学校応援団のさらなる充実

夢の3
地域協育ネットの充実

夢の4
幼保小中高連携の強化

夢の5
家庭の教育力を高めるための支援の強化

夢の6
放課後子ども教室の充実

3 志を実現させるための力の育成

～「生きる力」の確実な育成を基盤としたキャリア教育の推進～

志の1
「確かな学力」の育成

志の2
「豊かな心」の育成

志の3
「健やかな体」の育成

志の4
キャリア教育の推進

志の5
特別支援教育の充実

志の6
生徒指導の充実

志の7
幼児教育の充実

志の8
教職員の資質向上

4 基本方針を支える環境整備

- (1) 情報発信の充実
- (2) 安全で快適な学びの環境づくり
- (3) 学校の適正規模・適正配置
- (4) ICT環境の整備・充実
- (5) 学校教材、図書等の整備・充実

【基本方針】 1 自分を愛し、人を愛し、郷土を愛する教育の推進
～自己肯定感、他者肯定感、地域肯定感の育成～

愛の1 人権教育の推進

業務の 対象	学校、企業、保護者、 市民	意図(対象 をどうし たいのか)	ひとり一人の人権意識の向上を図る。				
指標 1	人権教育研修会の開催 件数(回/年)	成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
		33	23				
経費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
	682 千円						

[主な取組の成果と有効性]

① 人権教育の推進

○ 人権教育研修会の開催 [人権教育室]

- ・学校、企業、保護者及び市民を対象とした人権講座を、延べ23回開催。うち人が集中する
参集開催から分散開催に変更しての研修を5回開催
- ・多様な性のあり方や、インターネット上の問題をテーマとした講座をはじめ、人権課題等
の状況に関する講義を実施
- ・人権教育推進委員会は、2回開催

② 相談・推進体制の充実

○ 指導者の養成 [人権教育室]

- ・指導者対象の研修、講座を8回開催
- ・講義後のアンケートに、身近な問題に受け取れたとの感想が記されるなど、人権意識向上
へ向けた指導者としての動機づけにつながる評価を複数得た。

③ 人権啓発活動の推進

○ 児童生徒の作品募集 [人権教育室]

- ・人権啓発ポスターの募集により、市内全小学校から、147人の応募(毎年開催)
- ・受賞作品の市役所ロビー展示や市報掲載により、保護者や市民に広く周知

<人権教育研修会の開催件数> [人権教育室]

評価 1	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
	B				
主な 理由	<ul style="list-style-type: none"> ・成果指標33回/年に対し、約7割となる23回/年の成果であったこと。 ・一部の研修は、集中開催から分散開催に変更し実施した。 				

[今後の課題と改善案]

- ・研修会の開催回数や参加者数は、コロナ禍以前の令和元年度数値に戻っていない。
- ・心の根幹に問い掛ける課題もある中、幅広く継続的に開催していくことが重要である。

愛の2 生涯学習の推進

業務の 対象	学校、市民	意図(対象 をどうし たいのか)	学習機会の確保と、学校図書館や複合図書館開館に 向けての連携を図る。				
指標 2	図書館連携会議の開催 件数(回/年)	成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
		3	2				
3	公民館講座や各種教室 の開催件数(講座/年)	100	61				
経費	R 3	R 4	R 5		R 6		R 7
	97,126 千円						

[主な取組の成果と有効性]

① 普及啓発活動の推進

○ 学習情報の提供 [生涯学習・スポーツ推進課]

- ・グループサークルの紹介冊子を各公民館等に配布・設置。併せて、市ホームページに掲載
- ・各種教室や講座の開催情報を、市報、市ホームページ、公民館だよりに掲載し周知

② 学習活動の多面的支援と相談体制の充実

○ しらかべ学遊館との連携 [生涯学習・スポーツ推進課]

- ・しらかべ学遊館に社会教育指導員2人を配置し、本課との業務を連携
- ・展示室に生活民具を常設展示し、やないの暮らしを紹介。社会科見学等17件

○ 学校図書館との連携強化 [図書館]

- ・学校司書との連携会議を2回開催(3回目は感染症対策により中止)
- ・柳井小学校図書館の見学
- ・学校用の団体登録カードと別に、新たに学校司書用の登録カードを作成し、学校司書の主体性の向上や利便性の向上を図った。

○ 図書資料の充実 [図書館]

- ・図書購入費2,203冊3,505千円、貸出点数113,049冊
- ・イベント開催時に雑誌の意向調査を実施し、77人の回答データを参考にして購入に反映
- ・新たに2者の雑誌スポンサーを得て、購入契約合計9件12誌

○ 図書館の魅力の発信 [図書館]

- ・4月17日～5月15日及び8月1日～29日、新たに寄贈された「独歩直筆書簡」を展示
- ・新たにデジタルアーカイブを作成し、Web上にて資料公開
11月公開…国木田独歩に関する資料、1月公開…浦家資料「浦滋之助日記」
- ・8月、新たに「子ども向けアニメ映画観賞会」開催、参加42人
- ・10月、柳井図書館まつり「みんなのわくわく図書館」開催、参加272人(人数限定)
- ・11月、大島図書館まつり「子どものひろば」開催、121人参加(人数限定)

○ 複合図書館への対応 [図書館]

- ・複合図書館建設に伴う館内レイアウトの協議を随時実施

③ 人材・組織の育成

- 公民館講座や各種教室の開催 [生涯学習・スポーツ推進課]
 - ・中央公民館及び各地区公民館において、61件(累計582回)の講座、教室を開催
- 各種研修会への参加 [生涯学習・スポーツ推進課]
 - ・公民館職員東部地区研修(光市)1人参加

④ 学習成果発表会の充実

- 公民館まつり等の開催 [生涯学習・スポーツ推進課]
 - ・「柳井まつり協賛展覧会」、「柳井市中央公民館まつり」は、感染症対策により中止

⑤ 生涯学習推進体制の整備充実

- 講演会の実施 [生涯学習・スポーツ推進課]
 - ・7月に「山口県立大学サテライトカレッジ」を1回開催
- 公民館の整備 [生涯学習・スポーツ推進課]
 - ・旧阿月小跡地に整備する出張所及び地区体育館の機能を有する新たな公民館の建設に関わる地元住民代表者協議を5回開催
- 社会教育施設の活用 [生涯学習・スポーツ推進課]
 - ・8月と2月に、星の見える丘工房での「天体観測会」を2回開催(計画4回)し、延べ38人参加
 - ・感染症対策のもと、新庄公民館及び星の見える丘工房での陶芸活動を継続実施

<図書館連携会議の開催件数> [図書館]

評価	R3	R4	R5	R6	R7
2	B				
主な理由	・成果指標3回/年に対し、2回開催の成果であったこと。				

<公民館講座や各種教室の開催件数> [生涯学習・スポーツ推進課]

評価	R3	R4	R5	R6	R7
3	C				
主な理由	・感染状況を注視しつつも、予想以上に休講する機会があったこと。 ・感染症対策による講座・教室の休講があったこと。				

[今後の課題と改善案]

- ・生活スタイルや教育的機能の変化により、多様な学習機会の提供が求められている。
- ・幅広く提供主体を求め、従来どおり以外の学習機会を模索することも大切である。
- ・図書館来館者の増加を図るため、学校や地域との連携をより強化していく必要がある。
- ・図書資料の充実のほか、幅広い世代に支持されるイベントの実施に努める。
- ・学校司書との会議などを通じて連携の幅が広がり、建設的な情報共有への取組につなげていくことが大切である。

愛の3 青少年の健全育成

業務の対象	青少年	意図(対象をどうしたいのか)	街頭補導やあいさつ運動を通じ、青少年の非行を防止する。				
指標4	少年補導員による街頭補導回数(回/年)	成果指標	R3	R4	R5	R6	R7
		30	30				
経費	R3	R4	R5	R6	R7		
	2,162千円						

[主な取組の成果と有効性]

① 青少年育成センターの充実

○ 街頭補導の実施 [生涯学習・スポーツ推進課]

- ・少年補導員51人により、市内全地区において巡視を30回実施
- ・青少年健全育成市民会議常任委員会は、感染症対策により書面開催
- ・7月に、青少年問題協議会を開催し、状況報告や情報を交換

② 青少年を取り巻く環境の整備

○ 小中高生徒指導連絡協議会への参加 [生涯学習・スポーツ推進課]

- ・6月28日開催の協議会で、小中学校及び関係機関による状況報告や情報を交換・共有

○ 成人祝賀式の開催 [生涯学習・スポーツ推進課]

- ・「令和4年柳井市成人祝賀式」は、感染症対策により延期。次年度4月30日に開催し、参加者168人

<少年補導員による街頭補導回数> [生涯学習・スポーツ推進課]

評価4	R3	R4	R5	R6	R7
	A				
主な理由	・成果指標30回/年に対し、30回実施の成果であったこと。				

[今後の課題と改善案]

- ・少子化や生活様式の変化により、街中でこどもの姿を見かけることが少なくなっている。
- ・SNS対策も、併せて実施する必要がある。
- ・過去補導した店舗従業員等と人間関係をつくり、スムーズに活動できるよう努めている。

【基本方針】 1 自分を愛し、人を愛し、郷土を愛する教育の推進
～自己肯定感、他者肯定感、地域肯定感の育成～

愛の4 芸術・文化の振興

業務の 対象	学校、団体、市民	意図(対象 をどうし たいのか)	芸術や文化に触れ合う機会の充実と、自主的な活動 への支援を推進する。				
指標 5	サンビームやない自主 文化事業の開催回数 (回/年)	成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
		3	1				
経費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
	454 千円						

[主な取組の成果と有効性]

① 文化にふれあう機会の充実

- 美術展覧会の開催 [生涯学習・スポーツ推進課] [図書館]
 - ・短詩型文学祭を開催。投稿数（俳句部門 105 句、短歌部門 123 首）
 - ・11 月 13 日～17 日「市美術展覧会」を開催し、出展数 176 点、820 人の来場者
 - ・11 月 1 日～3 日「市生活芸術展覧会」を開催し、350 人の来場者
 - ・国木田独歩生誕 150 年記念「フォトコンテスト」、「読後エッセイコンテスト」、「朗読と講演会（2 月 27 日）」のイベント開催団体に助成

② 自主的な芸術・文化活動の促進

- 自主文化事業の開催 [サンビームやない]
 - ・「サザンセット音楽祭洋楽の部・邦楽の部」は、感染症対策により中止。
 - ・「スタインウェイを弾く会」は、感染対策のもと、関係者のみで開催（14 人参加）
- 施設の適正な管理運営 [生涯学習・スポーツ推進課]
 - ・市文化福祉会館・勤労青少年ホーム（指定管理）利用者 31,366 人
 - ・サンビームやない修繕・改修…トイレ手洗器自動水栓化、楽屋・練習室空調設備改修等
 - ・文化福祉会館修繕・改修…トイレ手洗器自動水栓化等

<サンビームやない自主文化事業の開催回数> [サンビームやない]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
5	D				
主な理由	<ul style="list-style-type: none"> ・成果指標 3 回/年に対し、1 回開催の成果であったこと。 ・開催判断の難しい中、規模縮小や感染対策への理解を得て開催に至った。 				

[今後の課題と改善案]

- ・出品者が固定化する傾向があるため、新たな出品者増加への周知を図る必要がある。
- ・買取公演の実施など、サンビームやない施設活用への継続的な事業展開が重要である。
- ・個別施設計画の策定など、施設の長寿命化対策を検討していく必要がある。

愛の5 スポーツ・レクリエーション活動の振興

業務の 対象	市民	意図(対象 をどうし たいのか)	スポーツ参加の機会拡充による健康の増進。				
指標 6	市主催大会への参加者 数(延べ人数)	成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
		5,600	0				
経費	R 3	R 4	R 5		R 6		R 7
	150,417 千円						

[主な取組の成果と有効性]

① 生涯スポーツの推進

○ スポーツ活動への参加促進 [生涯学習・スポーツ推進課]

- ・「市民スポーツ・レクリエーションのつどい」、「第35回市民駅伝競走大会」、「第65回柳井市ロードレース大会」及び「琴石山健康ハイキング大会」は、感染症対策により中止

② 技術力の向上

○ スポーツに関する競技水準の向上推進 [生涯学習・スポーツ推進課]

- ・市体育協会を通じ、同協会が実施する加盟団体活性化事業や、優秀な成績を挙げた個人及び団体への表彰式の開催など、競技水準向上に向けた取組に対する助成(柳井サッカー協会、柳井市フェンシング協会)
- ・全国大会等出場者への激励金交付は、97件
- ・県体育大会への激励金は、一般142件、スポーツ少年団44件

③ 人材の育成

○ スポーツをとおした青少年の健全育成 [生涯学習・スポーツ推進課]

- ・市スポーツ少年団団員募集の冊子を市内全小学校児童に配布
- ・市スポーツ少年団主催の「体力テスト」と「親子交歓会」は、感染症対策により中止

④ スポーツによる地域活性化

○ 地域交流及び情報発信の推進 [生涯学習・スポーツ推進課]

- ・大学運動部等による「スポーツ合宿」の助成件数は、0件
- ・例年10月開催の「サザンセット・ロングライド」は、感染症対策により中止

⑤ スポーツの場の充実及び施策の推進

○ 施設の整備及び利用の促進 [生涯学習・スポーツ推進課]

- ・柳井ウェルネスパークの遊具の更新と、修景池浚渫事業を実施
- ・市体育館の雨水排水ポンプ修繕と、屋根修繕を実施
- ・スポーツ施設の年間利用者数は、444,953人

○ スポーツに関する功績者の顕彰 [生涯学習・スポーツ推進課]

- ・市スポーツ推進条例、市教育委員会選奨規則及び市表彰規定に基づく功績等の情報収集
- ・市功労者表彰は「柳井市バドミントン協会」が受賞。

<市主催大会への参加者数> [生涯学習・スポーツ推進課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
6	D				
主な理由	・感染症対策により、市主催行事が開催できなかったこと。				

[今後の課題と改善案]

- ・各種行事の開催可否や施設の利用実績は、次年度も、コロナ禍の影響が否めない。
- ・イベントを中止しても、スポーツ活動に触れる機会の創出を検討する必要がある。

[参考] 柳井市スポーツ少年団を構成する 25 団体

空手道	全日本空手道連盟和道会正心館 武心会柳井空手
剣道	カワノ道場 新庄少年剣友会 清徳館剣道
柔道	斉藤柔道クラブ 日積柔道
水泳	やないスイミングクラブ 柳北水泳
陸上	柳井陸上
レスリング	大畠レスリング 斉藤道場レスリング
硬式野球	ヤングSAD
ソフトボール	新庄ブルーイーグルス 余田みどり
軟式野球	伊陸ひむろ 大畠うずしおマリーンズ 柳井ゴールドスターズ 柳北
サッカー	SAファイターズ 周東エンジェルス
バスケットボール	新庄ミニバス 柳井バスケットボール
バドミントン	柳井JBC
バレーボール	柳井SAボンバーズ

[参考] 柳井市体育協会を構成する 22 団体

柳井サッカー協会 柳井市合気会 柳井市アーチェリー協会 柳井市空手道連盟
 柳井市弓道連盟 柳井市グラウンド・ゴルフ協会 柳井市ゲートボール協会
 柳井市剣道連盟 柳井市柔道協会 柳井市水泳連盟 柳井市スキー連盟
 柳井市卓球協会 柳井市テニス協会 柳井市レスリング協会
 柳井市バスケットボール協会 柳井市バドミントン協会 柳井市バレーボール協会
 柳井市フェンシング協会 柳井市野球連盟 柳井市陸上競技協会
 柳井ソフトテニス協会 柳井ソフトボール協会

[参考] 柳井レクリエーション協会を構成する 6 団体

SAアウトドアクラブ 柳井市アーチェリー協会 柳井市グラウンド・ゴルフ協会
 柳井市ゲートボール協会 柳井市ソフトバレーボール連盟 柳井フォークダンスクラブ

愛の6 歴史・伝統の継承と保護

業務の 対象	市民	意図(対象 をどうし たいのか)	郷土の歴史伝統を身近に感じる機会の提供と、次世代に継承する支援を行う。				
指標 7	歴史民俗資料館等での 団体及び学校利用回数 (回/年)	成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
		15	41				
経費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
	40,670 千円						

[主な取組の成果と有効性]

① 地域の文化遺産の保存と活用

- 歴史民俗資料館等施設の活用 [文化財室]
 - ・しらかべ学遊館で「独歩生誕 150 年」「長尾原遺跡Ⅱ、五反田遺跡発掘調査」の展示
 - ・月性展示館は、文香や書写体験の新たな取組により来館者 365 人に微増
 - ・有形文化財の移転先の整備補助 (1 件 42 千円)
- 文化遺産の保全 [文化財室]
 - ・仏像 2 件 5 軀を市有形文化財に指定 (高山寺所蔵 1 件 3 軀、同寺所蔵 1 件 2 軀)
 - ・国指定重要文化財国森家住宅の消防設備を改修
- 伝統的建造物群保存地区の保存事業 [文化財室]
 - ・対象家屋の外壁など 2 件の緊急修理を実施

② 伝統文化・芸能の保存・継承

- 活動の支援と後継者の育成 [文化財室]
 - ・感染症対策により、各行事・祭り等は中止

<歴史民俗資料館等での団体及び学校利用回数> [生涯学習・スポーツ推進課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
7	A				
主な理由	・コロナ禍により県内の見学者が増えたため。				

[今後への課題、または改善案]

- ・未指定及び未確認となっている文化財を調査する必要がある。
- ・感染症対策により中止となった行事や祭り等の再開時期の見極めが課題である。

愛の7 郷土教材の開発と地域人材による郷土学習

業務の 対象	児童、生徒、 学校関係者	意図(対象 をどうし たいのか)	教職員と保護者、地域住民が連携しながら、地域の文化財や歴史的出来事を生かした教材を開発し、子どもたちが地域の伝統や文化に親しみや誇りを感じるような授業づくりを行う。				
指標 8	地域の文化財や歴史的 出来事の教材開発 (全校)	成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
		13	13				
9	ゲストティーチャーに よる授業(全校)	13	13				
経費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
	483 千円						

[主な取組の成果と有効性]

① 地域の文化財や歴史的出来事を生かした教材開発

○ 地域の文化財や歴史的出来事の教材開発 [学校教育課]

- ・前年度に作成した小学校社会科の地域教材「ふるさと柳井」を活用し、社会科授業の充実を図った。
- ・小学校社会科の地域教材「ふるさと柳井(地図)」の見直し・改訂を実施

○ 文化財の情報発信と活用 [文化財室]

- ・市文化福祉会館で「郷土史講座」を開催し、4回延べ250人の受講
- ・社会教育指導員による「郷土史コラム」を、市報に累計12回掲載
- ・新たに市の有形文化財とした仏像2件を、市ホームページの掲載や看板設置により周知
- ・発掘調査は、伊陸「有実遺跡、松成西遺跡」、新庄「信川遺跡」(県調査)を実施

② 生きた歴史を学ぶための、ゲストティーチャーによる授業の実施

○ ゲストティーチャーによる授業 [学校教育課]

- ・地域の人をゲストティーチャーとして招聘し、戦争にまつわる話など、地域の特色を生かした授業を実施
- ・小学校社会科では、地域農家の畑づくりや、田植えの体験型学習を実施

<地域の文化財や歴史的出来事の教材開発> [学校教育課]

評価 8	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
	A				
主な 理由	<ul style="list-style-type: none"> ・全校において、教材開発が実施できたこと。 ・「ふるさと柳井(地図)」の見直しだが、現況に沿ったものに改訂できたこと。 				

<ゲストティーチャーによる授業> [学校教育課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
9	A				
主な理由	・全校において、学校教育目標や発達段階、教育課程に合った地域のゲストティーチャーを招聘することで、有用な授業支援ができたこと。				

[今後の課題と改善案]

- ・「ふるさと柳井」を活用していく中で、気付きや課題を蓄積し、次回改定時に反映することが大切である。
- ・「ふるさと柳井」のほかにも、それぞれの地域が学校に応じた教材の活用や開発に努める。
- ・ゲストティーチャーによる授業を他分野で活用できるよう地域との連携を密にし、教育的資源の発掘と情報収集に努める。

[参考]

新たに市の有形文化財として指定した木造釈迦如来坐像及び迦葉・阿難尊者立像
(伊陸 高山寺所蔵)



夢の1 学校運営協議会の機能の強化

業務の 対象	学校関係者 学校運営協議会委員	意図(対象 をどうし たいのか)	学校運営協議会をさらに充実させ、地域とともにある学校づくりを推進する。				
指標 10	コミュニティ・スクールの運営に関する教職員対象の研修会等の実施回数(回/年)	成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
		1	2				
経費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
	0千円						

[主な取組の成果と有効性]

- ① 学校、家庭、地域住民の連携と協働に根ざしたコミュニティ・スクールの運営
 - コミュニティ・スクールの運営推進書の作成 [学校教育課]
 - ・各学校においてCS経営案を作成し、年間を見通した学校運営を図ることができた。
 - 地域に開かれた学校要覧の作成 [学校教育課]
 - ・学校要覧に、CS経営案や経営方針、学校応援団との学習の様子などを掲載
- ② スクール・コミュニティセンターを中心とした、学校運営協議会の活性化に向けた支援と情報発信
 - 学校運営協議会への支援 [学校教育課、生涯学習・スポーツ推進課]
 - ・地域学校協働活動推進員や指導主事が、すべての学校の学校運営協議会に参加し、学校や地域の実態把握と情報共有を図ることができた。
- ③ 教職員が一体となってコミュニティ・スクールの運営にあたる仕組みづくり
 - 校内体制の整備 [学校教育課]
 - ・地域連携担当教員を校務分掌に位置付けた体制を整備
 - ・学校運営協議会委員には、授業を定期的に公開し、助言を受けている。
- ④ 地域住民との交流の拠点となるコミュニティ・ルームの整備・活用
 - コミュニティ・ルームの活用 [生涯学習・スポーツ推進課]
 - ・コミュニティ・ルームを地域の活動場所として積極活用し、地域との交流を促進

<コミュニティ・スクールの運営に関する教職員対象の研修会等の実施回数> [学校教育課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
10	A				
主な理由	・「やない教育の日」に、地域連携教育合同研修会を実施し、学校運営協議会における活動や役割を再確認することができたこと。				

[今後の課題と改善案]

- ・地域連携担当教員だけでなく、すべての教職員に情報が行き渡るよう、校内研修会等において復伝の徹底を図る必要がある。
- ・学校、家庭、地域の協働活動への道筋を見出せるよう、その協議内容や進行方法を工夫する。

[参考] 学校運営協議会



[参考] 地域連携教育合同研修会



【基本方針】 2 夢をはぐくむスクール・コミュニティづくりの推進
 ～学校、家庭、地域の連携による人づくり、まちづくりの推進～

夢の2 学校応援団のさらなる充実

業務の 対象	学校関係者、 学校応援団員	意図(対象 をどうし たいのか)	新たな人材の確保と学校の実情に応じた活動の支援 を推進することで学校教育の充実をめざす。				
指標 11	各学校の地域コーディネーターとの協議回数 (回/年)	成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
		6	5				
経費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
	258 千円						

[主な取組の成果と有効性]

- ① スクール・コミュニティセンターを中心とした、学校応援団の充実に向けた支援
 - 学校応援団研修会の実施 [生涯学習・スポーツ推進課]
 - ・ 県教委地域連携教育推進課から講師を招聘し、学校と地域をめぐる制度や仕組みに関する研修のほか、本市の取組方針についての協議を実施（1回）
- ② スクール・コミュニティセンターによる、学校応援団に関する情報収集と情報発信
 - スクール・コミュニティだよりの発行 [生涯学習・スポーツ推進課]
 - ・ 年10回発行のスクール・コミュニティだより「こやらい」の中で、他市町の取組事例や、学校と地域をめぐる制度や仕組みについて紹介（学校応援団部分）
- ③ 学校応援団の新たな登録者の募集
 - 新たな学校応援団登録者の募集 [生涯学習・スポーツ推進課]
 - ・ 市報や各学校制作のチラシ募集により、39団体、1,085人が登録
 - ・ 各学校の特色や地域性を生かして、年間延べ16,707人が活動
- ④ 校内コーディネーターの活動を支援
 - 地域コーディネーターとの情報交換 [生涯学習・スポーツ推進課]
 - ・ スクール・コミュニティセンターにおいて、各学校の地域コーディネーターが参加しての活動状況報告や意見交換会を5回開催

<各学校の地域コーディネーターとの協議回数> [生涯学習・スポーツ推進課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
11	B				
主な理由	・ 学校運営協議会や地域コーディネーターの集会に参加し、学校と地域の活動把握などの情報共有を行うことができたこと。				

[今後の課題と改善案]

- ・ スクール・コミュニティだよりの充実を図る必要がある。
- ・ 多様な地域の人材の発掘と、参画に導く機会の提供に取り組む必要がある。

【基本方針】 2 夢をはぐくむスクール・コミュニティづくりの推進
 ～学校、家庭、地域の連携による人づくり、まちづくりの推進～

夢の3 地域協育ネットの充実

業務の対象	学校、保護者、 地域住民	意図(対象をどうしたいのか)	地域ぐるみで子どもの学びや育ちを支援する仕組みづくりや活動を推進する。				
指標12	スクール・コミュニティだよりの発行回数(回/年)	成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
		3	10				
経費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
	1,207 千円						

[主な取組の成果と有効性]

- ① スクール・コミュニティセンターによる、地域協育ネットの活動の充実に向けた支援
 - 地域協育ネット協議会への参加 [生涯学習・スポーツ推進課]
 - ・本市職員が、すべての学校の学校運営協議会と協育ネット協議会に参加し、他地域の好事例紹介や、地域連携に関する取組方針等を説明
 - ・地域コーディネーターに対して、課題解決に向けた働きかけの支援
- ② スクール・コミュニティセンターによる、地域協育ネットに関する情報収集と情報発信
 - スクール・コミュニティだよりの発行 [生涯学習・スポーツ推進課]
 - ・年10回発行のスクール・コミュニティだよりの「こやらい」の中で、他市町の取組事例や、学校と地域をめぐる制度や仕組みについて紹介(地域協育ネット部分)

<スクール・コミュニティだよりの発行回数> [生涯学習・スポーツ推進課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
12	A				
主な理由	・成果指標3回/年に対し、10回/年発行し、市内各校の取組を紹介できたこと。				

[今後の課題と改善案]

- ・スクール・コミュニティだよりの充実を図る必要がある。

夢の4 幼保小中高連携の強化

業務の対象	幼稚園、保育園(所)、小学校、中学校、高等学校	意図(対象をどうしたいのか)	小・中学校の連携を核として幼稚園、保育園(所)、高等学校との連携を強化することで、将来の地域社会を支える人材の育成に努める。				
指標13	校種間連携を推進する協議会の開催回数(各協議会1回/年)	成果指標	R3	R4	R5	R6	R7
		4/4	3/4				
経費	R3	R4	R5	R6	R7		
	0千円						

[主な取組の成果と有効性]

① 幼保小連携協議会の開催

- 幼保小連携協議会の開催 [学校教育課]
 - ・2月に幼保小連携に関わる保育士、教諭等を対象とした協議会を1回開催
 - ・発達段階における子どもの育ちを十分に理解し、一貫した指導体制の構築につなげた。

② 小中一貫教育に関する研究の推進

- 小中一貫教育校の授業公開への参加 [学校教育課]
 - ・各学校に、県教委主催による授業公開や、附属学校による研究発表会の情報を発信し、連続した9年間の学びについての意識の向上を図った。

③ 校種間連携による教育活動の推進

- 校種間連携を推進する協議会の開催 [学校教育課]
 - ・例年開催の「小中高連携教育推進協議会」は、感染症対策により中止
 - ・「柳井市小中高生徒指導連絡協議会」と「柳井市学校保健委員会」を開催し、生徒指導や保健関係についての情報を共有し、連携を深めた。

<校種間連携を推進する協議会の開催回数> [学校教育課]

評価	R3	R4	R5	R6	R7
13	B				
主な理由	・感染症対策により開催を中止した会議等もあるが、概ね開催できたこと。				

[今後の課題と改善案]

- ・幼、保、小、中、高の教職員がお互いを知ることから始まり、設定した共通のテーマに向け取り組んでいくことが必要である。

夢の5 家庭教育の教育力を高めるための支援の強化

業務の 対象	学校、保護者	意図(対象 をどうし たいのか)	家庭を支える多様なネットワークづくりをとおし て、家庭教育力を高める。				
指標 14	目標の成果を検証する アンケートの実施回数 (回/年)	成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
		2	2				
15	保護者を対象にした研 修会の開催回数(回/年)	2	6				
経費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
	53 千円						

[主な取組の成果と有効性]

① 家庭教育力を高めるための支援の充実

- 家庭教育支援チーム員の育成 [生涯学習・スポーツ振興課]
 - ・ 県教委主催「家庭教育アドバイザー養成講座」の参加支援や、保護者を対象とした講座実施のための研修を実施

② 家庭児童相談員及び少年安全サポーターの配置

- 少年安全サポーターの活用 [生涯学習・スポーツ推進課]
 - ・ 各小中学校における防犯指導・訓練を実施

③ 家庭や地域社会、異校種と連携した多様な体験活動の充実

- 地域の行事等への参画の働きかけ [学校教育課]
 - ・ 例年開催する地域の清掃活動や交流行事への参加は、感染症対策により中止
 - ・ 米づくり体験や職場体験などの学校と地域が連携した体験活動は、感染対策に努め実施

④ 学校、家庭、地域の連携による「学びのサイクル」の確立 【志の1④】

- 学びのサイクルの質的な向上 [学校教育課]
 - ・ 休日や長期休業期間を利用し、異校種の生徒が教師役を務めた学習会を実施

⑤ 家庭教育支援に係る情報提供や保護者間の人間関係づくりの機会の充実

- 保護者を対象にした研修会の開催 [生涯学習・スポーツ推進課]
 - ・ 保護者同士の人間関係づくりを目的とした「グループワーク研修」を6校で実施し、44人参加

<目標の成果を検証するアンケートの実施回数> [学校教育課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
14	A				
主な理由	・保護者や地域へのアンケートを計画通り行うことができたこと。				

<保護者を対象にした研修会の開催回数> [生涯学習・スポーツ推進課]

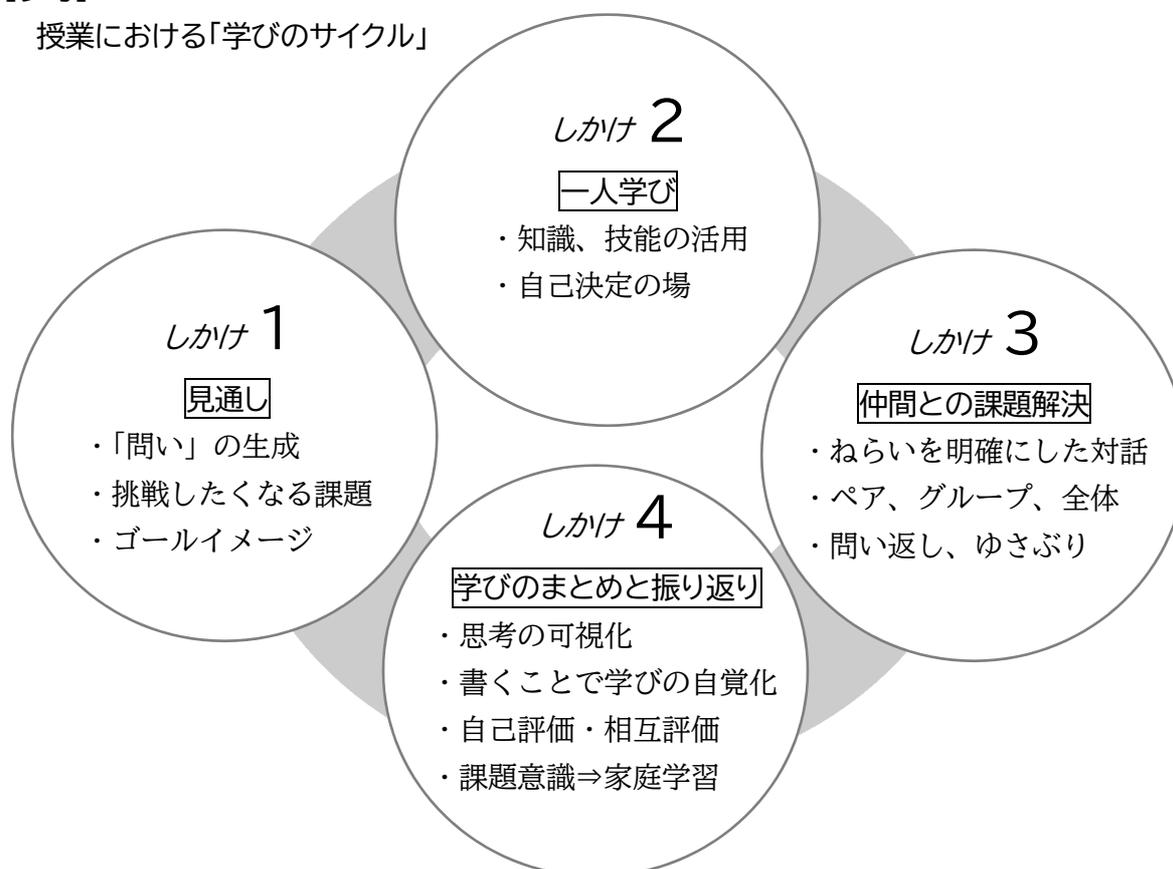
評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
15	A				
主な理由	・成果指標 2 回/年に対し、5 回/年の研修会を開催し、研修後のアンケートでは、その内容に対し、9 割を超える肯定的な回答を得たこと。				

[今後の課題と改善案]

- ・家庭教育に関するアンケートを各学校の実情に応じて実施している中で、学校ごとの課題を見つけ、今後の教育活動にどう生かすかを検討する必要がある。
- ・アンケート内容を精査し、各学校の教育活動を通じて、各家庭の教育力の向上に寄与するためにも、回答率を上げる必要がある。
- ・山口県教育委員会主催「家庭教育アドバイザー養成講座」への参加を促し、保護者の子育てに関する不安や悩みを軽減する地域人材を育成する。

[参考]

授業における「学びのサイクル」



夢の6 放課後子ども教室の充実

業務の 対象	児童	意図(対象 をどうし たいのか)	子どもの遊び場としての放課後子ども教室の充実を 推進する。				
指標 16	放課後子ども教室の開 催回数(回/年)	成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
		24	4				
経費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
	0千円						

[主な取組の成果と有効性]

① しらかべ学遊館による放課後子ども教室の実施

- 放課後子ども教室の開催 [生涯学習・スポーツ推進課]
・昔の遊びや、ものづくり等の体験活動を4回開催

② 学校を単位とした放課後子ども教室の実施

- 各学校における放課後子ども教室の開催 [生涯学習・スポーツ推進課]
・感染症対策により開催に至らなかった。

<放課後子ども教室の開催回数> [生涯学習・スポーツ推進課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
16	D				
主な理由	・成果指標24回/年に対し、4回/年の実施に留まったこと。				

[今後の課題と改善案]

- ・開催する地域の実情に応じたプログラムを展開する必要がある。
- ・中高生を含め、学習支援のボランティアを拡充する必要がある。

[参考] しらかべ学遊館 放課後子ども教室 夏休みべんきょう会



志の1 「確かな学力」の育成

業務の対象	児童、生徒、 学校関係者	意図(対象をどうしたいのか)	学校の組織的な取組の軸として、家庭、地域が連携して子どもたちの基礎的・基本的な知識・技能と思考力・判断力・表現力等、そして主体的に学習に取り組む態度などの資質・能力を育成する。				
指標17	学力向上推進リーダーによる訪問指導(全校)	成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
		13	13				
経費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
	0千円						

[主な取組の成果と有効性]

① 学習指導要領の着実な実施

- カリキュラム・マネジメント [学校教育課]
 - ・中学校区ごとの協議の中で、「学校・地域連携カリキュラム」の作成を実施
- 学力の基盤となる力の育成 [学校教育課]
 - ・中学校区の研修会や市教委主催の授業研究会に、異校種教職員が参加し、様々な視点から授業改善に向けた協議の充実
 - ・学びのサイクルを意識した授業づくりを、市内全校において実践
- 年間授業時数の確保 [学校教育課]
 - ・すべての学校で「年間指導時数」を確保し、授業を実施
- ジュニア数学オリンピックの開催 [学校教育課]
 - ・これまでの取組により、一定の成果を得たことから発展的解消とし、新たな取組を検討中

② アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善

- 学力向上推進リーダーの活用 [学校教育課]
 - ・「“学びのサイクル” 確認シート」を活用し、共通の視点から授業づくりの指導を実践
 - ・学校教育課職員と学力向上推進リーダーとの毎月の情報交換会により、随時情報を共有

③ データに基づいた着実なPDCAサイクルの実施

- 学力向上担当を集めた研究集会の実施 [学校教育課]
 - ・本市が取り組む施策の共通理解と、各校の学力向上への取組についての好事例を共有
 - ・補充学習と学びの振り返りに重点を置き、各校での具体的実施に向けて協議
 - ・学力向上研究集会を年2回実施

④ 学校、家庭、地域の連携による「学びのサイクル」の確立 【夢の5④】

- 学びのサイクルの質的な向上 [学校教育課]
 - ・休日や長期休業期間を利用し、異校種の生徒が教師役を務めた学習会を実施

⑤ 読書活動の充実

○ 学校図書館の整備 [学校教育課]

- ・ 読書指導ほか、学校司書と司書教諭を中心として学校図書館活用の促進が図れた。
- ・ 展示する本の種類や並べ方を替えたり、学級委員会等において積極的に読書活動を推進するなど、児童、生徒と共になっての図書環境づくりに工夫が見られた。

<学力向上推進リーダーによる訪問指導> [学校教育課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
17	A				
主な理由	・すべての学校を学力向上推進リーダーが訪問し、授業内容の指導や研修会を実施、開催できたこと。				

[今後の課題と改善案]

- ・ 感染症対策により、学校内において地域の人々の活躍の場を設けることが難しい状況が続いた。「新しい生活様式」等の知見を踏まえつつ、互いに安心して交流し合える方法の検討と実践が必要である。

[参考] 中学校区研修会の様子



志の2 「豊かな心」の育成

業務の 対象	児童、生徒、 学校関係者	意図(対象 をどうし たいのか)	学校、家庭、地域が連携しながら、学校の教育活動全 体を通じた道徳教育に関する取組を工夫・改善する。				
指標 18	道徳授業セミナーや各 種研修会への参加や授 業公開（全校）	成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
		13	13				
経費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
	0千円						

[主な取組の成果と有効性]

① 道徳科の授業における「考え、議論する道徳」への質的変換

- 「考え、議論する道徳」の実現に向けた指導 [学校教育課]
 - ・ 県教委主催「道徳セミナー」の参加と、不参加の学校への資料共有
 - ・ 県教委作成「考え、議論する道徳」を基にした、各学校における道徳科の授業実践

② 豊かな心をはぐくむための体験活動の充実

- 体験活動の年間指導計画への位置づけ [学校教育課]
 - ・ 宿泊を伴わないなど、感染症対策として実施方法を工夫し、例年と比べ、社会奉仕に関わ
るボランティア体験や、文化・芸術体験活動を多く実施
(ぶどう栽培体験、神楽体験、三味線演奏体験など)

<道徳授業セミナーや各種研修会への参加や授業公開> [学校教育課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
18	A				
主な 理由	・ 全学校とも、各種研修会への参加や、参観日等の道徳科授業の公開による家庭と の連携の充実を図れたこと。				

[今後の課題と改善案]

- ・ 感染症対策により、各種研修会の中止や、校外での体験活動の機会減少から、適宜代替え
となる実施方法の検討が必要である。

志の3 「健やかな心」の育成

業務の 対象	児童、生徒	意図(対象 をどうし たいのか)	健やかな体をつくり、安全・安心を確保する。				
指標 19	新体力テスト等のデータによる柔軟性	成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
		全国平均 を上回る	男 4/13 女 3/13				
20	食育のための巡回訪問 の回数 (回/年・校)	1	8/13				
経費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
	0 千円						

[主な取組の成果と有効性]

① 体力向上の推進

○ 柔軟性の向上 [学校教育課]

- ・各学校が作成した「新体力向上プログラム」を基に、体力の向上や運動習慣の改善に向けた1校1取組について、協議・助言を行った。
- ・新体力テストの柔軟性が全国平均を上回った学校は、男子が4校、女子が3校

② 学校保健の充実

○ 課題に即した学校保健活動 [学校教育課]

- ・学校保健委員会を2回開催し、小・中・高等学校間の課題について情報交換
- ・学校保健委員会のブロック研修において、設定したテーマの成果等を紀要にまとめ発行

③ 食育の充実

○ 食育のための巡回訪問 [学校給食センター]

- ・栄養教諭において、小学校10校中7校、中学校3校中1校に、延べ30回実施
- ・直接、児童生徒から素直な感想を得ることで、細かく配慮した献立の作成に反映

○ お弁当の日の推奨 [学校教育課]

- ・「マイランチデー」と称し、年3回のお弁当の日を中学校3校で実施。併せて、生徒の委員会活動等と連携し、写真の掲示や、コンテストを開催

④ 安全教育の推進

○ 危険予測学習の実施 [学校教育課]

- ・全学校において、防犯を含む生活安全・交通安全・災害安全等の安全学習を実施
- ・「学校安全取組状況調査」を基に、安全教育への取組について指導・助言

<新体力テスト等のデータによる柔軟性> [学校教育課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
19	D				
主な理由	・全国平均を上回る学校が、13校中男子4校、女子3校と少なかったこと。				

<食育のための巡回訪問の回数> [学校給食センター]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
20	C				
主な理由	・全13校中、8校での実施となったこと。 特に、栄養教諭のいない11校への訪問が6校の実施に留まったこと。				

[今後の課題と改善案]

- ・柔軟性については、各校で体育の準備運動等で継続して取り組んでいるが、成果の上がっている学校と、そうでない学校がある。各校の好事例を共有するとともに、日々の取組の成果が十分に発揮されるよう新体力テストの実施方法についても、共通理解を図って取り組めるようにする。
- ・中学校での「お弁当の日」の取組を小学校に紹介し、食への自立を促す。
- ・単年度で全学級を食育巡回訪問することは、時間割上難しく、各校調整のうえ可能な学校において実施している。食育動画やICT教材を活用するなど、より体感的な食育指導の実施に努める。

[参考] 新体力テスト 小学校児童のテスト項目

- | | |
|------------|-----------|
| ・握力 | ・上体起こし |
| ・長座体前屈 | ・反復横とび |
| ・20mシャトルラン | ・50m走 |
| ・立ち幅とび | ・ソフトボール投げ |



[参考] アレルゲン

学校給食センターから、毎月配布している「アレルゲン表」は、献立ごとに食品衛生法で義務付けられた特定原材料の7品目（卵、乳、小麦、そば、落花生、えび、かに）と、表示が推奨されている20品目（あわび、いか、いくら、オレンジ、キウイフルーツ、牛肉、くるみ、さけ、さば、大豆、鶏肉、豚肉、まつたけ、もも、やまいも、りんご、ゼラチン、バナナ、ごま、カシューナッツ）の合計27品目を表示。

これらに対してアレルギー反応がみられる児童・生徒には、原因となる物質や症状等により、学校や保護者と協議・連携しながら対応している。



志の4 キャリア教育の推進

業務の 対象	児童、生徒	意図(対象 をどうし たいのか)	志や夢を持ち、人間力と社会力を兼ね備えた社会人・ 職業人として自立できる				
指標 21	「二分の一成人式」や 「立志式」の実施(全校)	成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
		13	13				
22	「学校・地域連携カリキ ュラム」の作成(全校)	13	13				
経費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
	11千円						

[主な取組の成果と有効性]

① 立志の教育の推進

- 「二分の一成人式」や「立志式」の実施 [学校教育課]
 - ・全学校において、「二分の一成人式」や「立志式」を実施
 - ・生徒が、キャリア・パスポートを活用し、ふり返りと将来の見通しを繰り返すキャリア教育の視点をもって立志式に参加することで、自己肯定感を高めていけるように努めた。

② 教育活動全体をとおしたキャリア教育の推進

- キャリア・パスポートの利用 [学校教育課]
 - ・小中高12年にわたる毎年の活動記録の蓄積から、次学年におけるキャリア形成の理解に役立てている。

③ 家庭や地域社会、異校種と連携した多様な体験活動の充実

- 地域行事等への参画の働きかけ [学校教育課]
 - ・屋外での地域行事や中学校の職場体験等、感染症対策のうえ参加

< 「二分の一成人式」や「立志式」の実施 > [学校教育課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
21	A				
主な理由	・全学校で「二分の一成人式」と「立志式」を実施することができたこと。				

< 「学校・地域連携カリキュラム」の作成 > [学校教育課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
22	A				
主な理由	・全学校で「学校・地域連携カリキュラム」を作成していること。				

[今後の課題と改善案]

- ・各学校とも「学校・地域連携カリキュラム」を定期的に見直し、常に更新に努める必要がある。特に、グランドデザイン及び単元配列表の充実を要する。

志の5 特別支援教育の充実

業務の 対象	教職員	意図(対象 をどうし たいのか)	1人ひとりの教育的ニーズに応じた教育を推進することができるようになる。				
指標 23	「柳井市特別支援教育 推進週間」の実施回数 (全校実施2回/年)	成果指標	R3	R4	R5	R6	R7
		2	2				
経費	R3	R4	R5		R6		R7
	0千円						

[主な取組の成果と有効性]

① 相談支援体制の充実

○ 専門家会議の開催 [学校教育課]

- ・市内13ある幼稚園・保育園(所)に巡回訪問を行い、特別な教育的支援を要する子どもの早期発見と早期支援につなげた。【志の7①】
- ・6月と12月の2回、「柳井市教育支援委員会」を開催し、医学的・教育的な視点から、総合的に就学先について協議

② インクルーシブ教育システムの構築

○ 特別支援教育推進週間の設定 [学校教育課]

- ・全学校で、6月は「教室環境づくり」と「学級経営」、11月は「授業づくり」をテーマに各1週間ずつ実施。学習環境や指導方法、教材の見直し・改善につなげた。

〔 インクルーシブ教育システムとは
障がいのある者と障がいのない者が可能な限り共に学ぶ仕組み 〕

③ 関係諸機関との連携の充実

○ 要請訪問の活用 [学校教育課]

- ・特別支援教育センターや、視覚・聴覚障害教育センターの地域コーディネーターを講師に招いた要請訪問を計12回実施。授業参観、教育相談、ケース会議及び校内研修等において、専門的な立場から具体的な指導・助言を得た。

④ 教職員の指導力の向上

○ 校内コーディネーター研修会の開催 [学校教育課]

- ・5月に柳井地域1市4町で「柳井地域特別支援教育校内コーディネーター研修会」を実施
- ・「個別の教育支援計画Q&A及び記入例 第3版」、「特別支援教育校内コーディネーターガイドブック」を用い、校内コーディネーターの役割について、研修を実施

<「柳井市特別支援教育推進週間」の実施回数> [学校教育課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
23	A				
主な理由	・全学校において年2回の推進週間を実施し、学習環境や指導方法、教材の見直し・改善につながったこと。				

[今後の課題と改善案]

- ・県教委作成のチェックリスト「特別支援学級及び通級による指導の適切な運用に向けた確認事項」を基に、「自立活動、交流及び共同学習の時間数の適切な設定ができているか」について、各学校が特別の教育課程を編成する段階で、十分に指導・助言する必要がある。

[参考] 市内13の幼稚園・保育園(所)

幼稚園

私立柳井幼稚園

私立柳美幼稚園

保育園

市立柳井南保育所

市立大島保育所

ルンビニ保育園

ルンビニ第二保育園

放光保育園

若葉保育園

羽仁保育園

ひづみ保育園

伊陸保育園

新庄保育園

余田保育園



志の6 生徒指導の充実

業務の 対象	教職員	意図(対象 をどうし たいのか)	いじめや不登校等の課題に対応できる指導力の向上を図る。				
指標 24	「柳井市いじめ問題研 修会」の実施回数 (回/年)	成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
		1	1				
経費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
	600 千円						

[主な取組の成果と有効性]

① 相談支援体制の充実

- スクール・ソーシャルワーカーの配置 [学校教育課]
 - ・4人のSSWを9校の小・中学校に派遣し、134日、150時間稼働
 - ・問題を抱える児童生徒がおかれた環境へ働き掛けの必要がある事案が27件あり、そのうち、解決又は支援中を含め好転した事案が18件

② SNSトラブルへの新たな取組の推進

- 中学生主体の研修会の開催 [学校教育課]
 - ・11月に柳井警察署との共催による「柳井市中学生リーダーズサミット」を開催。代表生徒や学校間での意見交流を通して、「SNS利用時の実践ルール」を生徒自らにより設定

③ 関係機関との連携の充実

- 「要保護児童対策地域協議会」での情報共有 [学校教育課]
 - ・関係機関が連携してのケース会議を計49回実施
 - ・不登校、児童虐待、家庭の問題及び発達障害等、個別のニーズや課題に応じた構成メンバーを選定し、児童生徒一人ひとりを丁寧に支える体制を確保

④ 教職員の指導力の向上

- 「柳井市いじめ問題研修会」の開催 [学校教育課]
 - ・7月に「生徒指導主任研究集会兼いじめ問題研修会」を開催
 - ・家庭児童相談員を講師として「SNSによるいじめへの対応」について協議・研修を実施

< 「柳井市いじめ問題研修会」の実施回数 > [学校教育課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
24	A				
主な理由	「柳井市いじめ問題研修会」を予定通り実施できたこと。				

[今後の課題と改善案]

- ・増加傾向にある不登校児童生徒の課題に対して、新規不登校を出さない取組と継続不登校を減らす取組とを分けて考え、適時効果的に対応していく必要がある。

志の7 幼児教育の充実

業務の 対象	幼稚園・保育園（所）、 小学校	意図(対象 をどうし たいのか)	幼児期における子どもの育ちを十分に把握し、連携 の推進を図る。				
指標 25	「保育・幼児教育体験」 の実施回数（回/年）	成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
		1	1				
経費	R 3	R 4	R 5		R 6		R 7
	0 千円						

[主な取組の成果と有効性]

① 連携体制の充実

- 幼稚園・保育園（所）への巡回訪問 [学校教育課]
 - ・地域コーディネーター、保健師、家庭児童相談員、及び指導主事で構成する「柳井市特別支援専門家チーム」を設置し、市内13ある幼稚園・保育園（所）に巡回訪問を実施
 - ・9月に「就学予定児童情報連絡協議会」を開催し、巡回訪問後の情報整理や教育支援委員会への意見集約を行い、特別な教育的支援を要する子どもの早期発見・早期支援につなげた。

② 交流機会の促進

- 交流機会の確保 [学校教育課]
 - ・8月に教員4人が、3ヶ所の幼稚園・保育所（園）の「保育・幼児教育体験」に参加し、園生活の体験や園児との触れ合いから、学校生活における指導の工夫・改善につなげた。

< 「保育・幼児教育体験」の実施回数 > [学校教育課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
25	A				
主な理由	・各園の協力により、予定通り実施できたこと。				

[今後の課題と改善案]

- ・保育から教育へのつながりを見据えた「架け橋期のカリキュラム」の編成と実践への取組から、学校での指導方法の改善、充実に反映していく必要がある。

志の8 教職員の資質向上

業務の 対象	児童、生徒、 学校関係者	意図(対象 をどうし たいのか)	保護者や市民の信頼に応え、学校課題に適切に対処し、1人ひとりの子どもを伸ばすことができる教職員の育成をめざす。				
指標 26	「克己堂」の開催 (全校)	成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
		13	13				
経費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
	0千円						

[主な取組の成果と有効性]

① 多様な教育課題に対する力を付けるための研修の充実

- 多様な教育課題に対応する研修会の開催 [学校教育課]
 - ・ICT活用について、各校の情報担当を対象に「オンライン学習研究会」を1回開催
 - ・新たに「柳井市ICT活用推進プロジェクトチーム(YIP)」を設立し、計5回開催

② キャリアステージに応じた研修の充実

- 人材育成の研修会開催 [学校教育課]
 - ・若手教員(1～3年目)を対象とした「フレッシュ合同研修会」を開催し、15人が参加
 - ・ミドルリーダーが授業公開や運営を務めた「克己堂」を計13回開催

③ 質の高い学習指導を実現するための研修の充実

- 「克己堂」の開催 [学校教育課]
 - ・ICTの効果的な活用を共通の視点として、全学校で計13回開催。延べ481人参加
 - ・他校での授業研究会には必ず1人1回以上参加することとし、全教職員が参加

④ 子どもや保護者と向き合う時間を確保するための業務改善の推進

- コミュニティ・スクール運営推進書の位置付け [学校教育課]
 - ・コミュニティ・スクール経営案を運営推進書として活用した取組を実践

< 「克己堂」の開催 > [学校教育課]

評価 26	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
	A				
主な理由	・全学校において「克己堂」を開催できたこと。 ・全学校において授業公開の実施と、概ねすべての教職員が他校の研究会への参加と授業研究に取り組むことができたこと。				

[今後の課題と改善案]

- ・教職員の授業研修がより深まるよう実施内容等について随時改善を進めていく必要がある。

4-(1) 情報発信の充実

業務の 対象	市内外全般	意図(対象 をどうし たいのか)	本市の教育環境と活動、これからめざす教育の姿を わかりやすく伝える。				
指標 27	市ホームページの更新 頻度(回/月)	成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
		1	1.35				
28	指導主事の学校訪問に よる情報発信サポート (回/月)	1	1				
経費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
	0千円						

[主な取組の成果と有効性]

① 市ホームページの充実

○ 市ホームページの更新 [教育総務課]

- ・更新(回/月)は教育総務課 0.5 回、学校教育課 1.0 回、生涯学習・スポーツ推進課 2.2 回、文化財室 0.1 回、柳井図書館 4.0 回、サンビームやない 1.7 回、給食センター 2.2 回
- ・市ホームページCMSの更新に合わせ、ブラウザや出力時の見た目の改善を図った。

② 各小・中学校による情報発信の充実

○ 学校へのサポート [学校教育課]

- ・スクール・コミュニティの概要や、全国学力・学習状況調査の結果等を随時、更新掲載。

○ 興味・関心のあるホームページの開設 [学校教育課]

- ・全校とも、経営方針や学校行事、学校だより、地域情報等、随時充実を図っている。

<市ホームページの更新頻度> [教育総務課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
27	A				
主な理由	・見やすさや探しやすさ、新鮮さを感じられにくい意見があったこと。 ・ブラウザ上や出力した場合の表示の改善を行ったこと。				

<指導主事の学校訪問による情報発信サポート> [学校教育課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
28	A				
主な理由	・担当指導主事制度のもと、各学校に継続的に訪問し、情報収集と発信に努めたこと。				

[今後の課題と改善案]

- ・ページの意図が簡単に読み取れるよう、リンクのみの表示など、内容がわかりにくい表示は避ける必要がある。
- ・タイムリーな情報提供となっているか適宜確認し、継続した助言が必要である。

4-(2) 安全で快適な学びの環境づくり

業務の対象	児童、生徒、 学校関係者	意図(対象をどうしたいのか)	安全で快適な施設・設備の整備により、安心して学べる教育環境を提供する。				
指標 29	学校施設非構造部材 (屋内運動場)の耐震化率 (%)	成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
		100	78.6				
30	通学路の合同点検 (回/年)	1	2				
経費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
	203,286 千円						

[主な取組の成果と有効性]

① 学校施設の安心・安全な教育環境の確保

- 学校施設の改修 [教育総務課]
 - ・ 柳井南小の屋内運動場屋根防水改修、伊陸小の周辺整備等を実施
 - ・ 平郡へき地集会室の改修に着手（翌年度繰越）

② 教育環境の質的向上

- 教育環境の改善 [教育総務課]
 - ・ 余田小特別教室に空調機、小学校の屋内運動場 171 ヶ所に網戸を設置
 - ・ 柳井中と柳井西中特別教室に空調機、中学校の屋内運動場 122 ヶ所に網戸を設置

③ 通学の安全対策の推進

- 通学路の合同点検 [教育総務課]
 - ・ 国、県、市の道路管理者、警察、学校等により柳井市通学路安全推進会議を開催
 - ・ 改善要望箇所のうち新規分について、関係者による現地合同点検を 2 回実施
 - ・ 所管する各機関において、年度内に、改善要望箇所全 56 ヶ所中 48 ヶ所の対応を完了
- 遠距離通学への支援 [教育総務課]
 - ・ 小、中学校 4 校 10 台のスクールバスを運行。対象の児童生徒数は 160 人（日積小、柳井南小、大畠小、柳井中）
 - ・ 離島高校生の通学費用の補助（平郡東～柳井港、対象者 1 人）

④ 安心安全メールシステム

- 安心安全メールシステム [学校教育課]
 - ・ 各学校の安心安全メールを活用し、防犯や災害に関する情報を随時配信

⑤ 感染症対策の推進

- 「学校の新しい生活様式」に基づく衛生管理 [学校教育課]
 - ・ 文科省や県教委からの通知を踏まえ、学校内におけるマスク着用、手指消毒の実施、体温

の計測等、基本的な感染対策を継続して実施

<学校施設非構造部材(屋内運動場)の耐震化率> [教育総務課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
29	B				
主な理由	・湧水対策など想定外の突発事案等にも適時対応し計画通り実施できたこと。 ・未施工箇所が3ヶ所あること。				

<通学路の合同点検> [教育総務課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
30	A				
主な理由	・現地において、関係者による合同点検を2回実施したこと。				

[今後の課題と改善案]

- ・校舎の耐震化率は、令和元年度末で100%達成済。非構造部材の耐震化未施工分は、伊陸小屋内運動場、平郡東小屋内運動場及び大畠中武道場を残し、引き続き計画的に取り組むこととしている。
- ・トイレの洋式化は、令和2年度末で小学校全校整備済。中学校は令和4年度から実施することとしている。
- ・道路の拡幅が困難な箇所等においても、通行車両への注意喚起表示等により、適宜、児童生徒への安全対策を図っていく必要がある。
- ・収束が見えない感染症対策において、引き続き、文科省等からの通知や最新の知見について正しく理解し、遅滞なく対応していくことが必要である。

柳井南小屋内運動場屋根防水改修



通学路現地合同点検



4-(3) 学校の適正規模・適正配置

業務の対象	児童、生徒、 地域住民	意図(対象をどうしたいのか)	地域の実態に配慮しつつ、一定の教育の機会均等や教育水準の維持向上を確保する。			
この項目の指標は定めていない。						
経費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	
	3,687 千円					

[主な取組の成果と有効性]

① 学校の適正規模・適正配置

- 適正規模・適正配置の検討 [教育総務課]
 - ・地域の状況等の把握

② 廃校跡地の活用

- 廃校跡地の有効活用の検討 [教育総務課]
 - ・旧阿月小、旧神西小、旧遠崎小、旧平郡西中、旧日積中、旧伊陸中、旧柳井南中の7校
 - ・旧神西小は、平成31年3月からビジコム柳井ラボ・サテライトオフィスとして貸付
 - ・旧阿月小は、令和4年度から阿月出張所・公民館建設用地として整備予定

[今後の課題と改善案]

- ・過小規模、小規模の学校とも、標準的な教育の機会と水準を確保する必要があること。
- ・共に学ぶ人数が少ないことを、地域がどう理解し補えるかを認識する必要があること。

[参考] 学校の規模

- ・法令では、小中学校の規模の標準を、12学級から18学級までとしている。
- ・本市では、小学校で180人以上、中学校で90人以上を適正規模の範囲とし、これを下回る学校を小規模校、さらに、普通学級が5学級以下の学校は複式学級をとり、過小規模校と位置付けている。

(令和3年度の学校の規模)

- 過小規模校 … 日積小、伊陸小、柳井南小
- 小規模校 … 柳北小、余田小、小田小、大島小、大島中
- 適正規模 … 柳井小、柳東小、新庄小、柳井中、柳井西中

4-(4) ICT環境の整備・充実

業務の対象	児童、生徒、教職員	意図(対象をどうしたいのか)	多様な子どもたちを誰一人残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する。		
この項目での指標は定めていない。					
経費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
	51,440 千円				

[主な取組の成果と有効性]

① ICT学習環境整備の推進

○ ICT学習環境整備の推進 [教育総務課]

- ・児童生徒1人に1台のタブレット端末、計2,331台を整備。併せて、校内Wi-Fi環境による高速通信ネットワークを整備(令和3年3月)
- ・インターネット環境が整わない家庭に、貸出用のWi-Fiルーターを整備

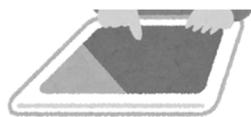
○ ICT支援員の配置 [学校教育課][教育総務課]

- ・教職員によるICT活用推進プロジェクトチーム(YIP)を設置
- ・令和4年4月からの運用に際し、2人のICT支援員を募集、採用内定

[今後の課題と改善案]

- ・5~6年後に、タブレット端末を更新する必要がある。
- ・教職員、ICT支援員、及び持ち帰り学習により家庭において生じる疑問・質問等に幅広く柔軟に対応する一元的な問い合わせ窓口を設ける必要がある。
- ・統合型校務支援システムの共同調達による業務の共通化により、教職員の事務の効率化と軽減を図れるよう協議を行っている。

[参考] 1人1台タブレット端末の活用 (Apple iPad)



[アプリケーション]

- ・Number 表計算
- ・Pages ワードプロ
- ・Keynote プレゼン
- ・GarageBand 音楽制作
- ・Clips ビデオ編集
- ・Apple Classroom ほか

(メリット)

- ・企業や他市町との遠隔授業、交流学习が可能
- ・情報を視覚・聴覚的かつ一斉に送受信可能
- ・ITリテラシーの育成が図れる ほか

(デメリット)

- ・安定運用のため整備・管理に費用が発生
- ・教職員に一定の運用ノウハウが必要
- ・児童生徒が粘り強く考える力を鍛えづらい ほか

4-(5) 学校教材、図書の整備・充実

業務の 対象	児童、生徒	意図(対象 をどうし たいのか)	基礎的・基本的な学習理解を助け、思考力・判断力・表現力や情報活用能力などを養う教育効果を高める。				
指標 31	学校司書の配置 (全校)	成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
		13	7				
経費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
	13,765 千円						

[主な取組の成果と有効性]

① 学校図書館の充実

○ 学校図書館の整備 [学校教育課] [教育総務課]

- ・児童生徒の学びを広げ、深めるための図書・資料の充実を図った。
- ・図書購入費実績は、小学校費 3,397 千円、中学校費 1,901 千円、前年比微増
- ・7人の学校司書を配置し、学習センターとしての学校図書館の役割を担えた。

○ 学校図書館図書標準の向上 [教育総務課]

- ・学校図書館図書標準達成率は、13校中7校が100%以上を達成(単純平均108.1%)
- ・学校図書館図書標準達成率が前年度に70%以下だった3校は0校に改善

② 教材や設備等の整備

○ 学校教材・備品の計画的な整備 [教育総務課]

- ・各学校からの要望教材備品である身長計、電子ミシン、簡易検流計、LED光源装置、プロジェクタ、カラープリンタ、プログラミングセットなど整備。うち、感染症対策として、全自動高圧蒸気滅菌器と滅菌パックスーラー各2台を整備(152数量、5,373千円)

<学校司書の配置> [学校教育課] [教育総務課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
31	C				
主な理由	・7人を配置して兼務により13校での活動は実施しているが、成果指標とする1校1人配置が達成していないため。				

[今後の課題と改善案]

- ・クラス数が係数となる図書標準冊数は、小規模校ほど選書の選択肢が狭くなりやすい。
- ・廃棄を減らせば達成率は上がるが、語彙力や文章力の向上、時代に応じた多様な価値観の醸成を育んでいくためにも、選書の方法について一定の共通理解が必要である。
- ・各校の好事例を共有し、児童生徒の読書活動のさらなる充実に向けた取組が必要である。

(4) 令和3年度の重点事項における個別評価

《学校教育》-----

学01) 1人1台タブレット端末等を活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現することで、すべての子どもたちの可能性を引き出す主体的、対話的で深い学びの研究を深めます。

→【4-(4)関連】 タブレット端末の各アプリを使用し、音声や画像、動画を用いて、紙だけでは伝えきれない情報を視覚的、聴覚的に受け取る環境整備を構築している。今後、児童・生徒一人ひとりの個性や興味に応じて、楽しみながら学習を進め、さらなる可能性の引き出しに努めたい。

学02) 自分の言葉で表現できる力を育成するため、コミュニケーション力や情報活用能力の育成を図ります。(英語教育の推進、言語活動・情報教育の充実)

→【志の1 関連】 アクティブ・ラーニングによる深い学びを進める中で、「仲間と試行錯誤しながら、より多くの考えや情報をつなぐ活動」や「仲間と協働して、自分たちなりの答えを練り上げる活動」、「話し合ったことを表出する活動」、これらの場を授業において設け、表現する力の育成を図ることができた。

学03) 複式学級等の少人数集団の指導方法について工夫改善を行います。特に学級集団づくりの研究や学習リーダーの育成についての研究を深めます。

→【志の8 関連】 複式学級のある学校では、リーダー学習の手引き等が示され、子どもたちが主体的に学習に取り組む様子が見られる。また、少人数の学校では、少人数の強みを生かし、学力保障の個別支援にも力を入れている。そのような学校での支援体制の視点をすべての学校で生かしていけるよう努めていきたい。

学04) 「学びのサイクル」の取組を充実するため家庭学習の在り方について工夫改善を行います。

→【夢の5 関連】 全教職員が「学びのサイクル」を意識し、各校で家庭学習の手引き等を作成し、家庭学習の充実を図っている。全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙の結果をホームページで公表する等、家庭への情報発信と、よりよい連携に努めていきたい。

学05) 子どもたち一人ひとりの学力を保障するために、データに基づいた学力向上を推進します。

→【志の1 関連】 全国学力・学習状況調査をはじめ、各種学力調査の結果から、子どもたちの課題を分析し、授業改善に活かしている。引き続き、すべての子どもたちが、該当学年において身に付けるべき学力が身に付いたかを丁寧に見取り、日々の指導に生かしていきたい。

学 06) いじめ、不登校への積極的な取組として、人間関係調整力を高めるための集団づくりに努めます。

→【志の6 関連】 スクールカウンセラーによる「思春期グローイングハートプロジェクト」において、児童生徒への「心理教育プログラム」を実施している。今後も、人間関係づくり、アサーショントレーニング、困難・ストレスへの対処法等のプログラムを継続して行い、積極的な生徒指導へとつなげていきたい。

学 07) 「学校・地域連携カリキュラム」を活用し、「社会に開かれた教育課程」の実現を図ります。

→【志の4 関連】 総合的な学習の時間や各教科等との関連を図りながら、地域の人が参加する授業について、教職員と地域と一緒に考える時間を設ける学校が増えている。こういった取組の蓄積など、学校・地域連携カリキュラム活用の周知に努めていきたい。

学 08) 学校運営協議会や地域協育ネット、学校応援団の機能を活性化し、学校・家庭・地域の協働による教育活動を強化します。

→【夢の1, 夢の2, 夢の3 関連】 コロナ禍以前のような活動はできていないが、感染対策を徹底のうえ、工夫しながら活動に前向きに取り組んでいる。各学校の好事例を共有し、これからの活動の在り方についても協議、検討していきたい。

学 09) 教職員一人ひとりの個性を生かした組織づくりを進め、地域や関係機関との連携を深めた中で、「チーム学校」としての機能強化を進めます。

→【志の8 関連】 地域にある学校として、多くの人に協力を得ながら学校運営体制を充実させていきたい。特に、社会に開かれた教育課程の実現は、「チーム学校」としての機能強化を進めるためにも重要であると考えている。

《社会教育》-----

社 01) 学校教育と両輪で進めるスクール・コミュニティに取り組む体制を構築します。

→【夢の2, 夢の3 関連】 地域学校協働活動推進員（市SCセンター）、学校教育課長補佐、社会教育主事が、各学校運営協議会や地域協育ネットの会合において、オブザーバーとして参加し、情報の共有など連携を図っている。

社 02) 地域に伝わる知恵や技術の伝承活動を促進します。

→【愛の6, 愛の7 関連】 地域においても、感染症対策により、各種の行事が中止された。注連縄づくりや祭りといった、地域に伝わる知恵や技術の伝承活動の保存・継承のためにも、感染対策を踏まえつつ、多様な世代が地域の伝統行事に参画できるよう促進に努める。

社 03) 自然体験活動を促進し、しなやかでたくましい子どもを育てます。

→【愛の2,愛の5関連】 星の見える丘工房設置の天体望遠鏡を活用し、星雲や惑星の観察、四季の星座を自分の目で確かめる天体観測会を2回開催した。日常生活とは異なる神秘的な感動を通じて、季節や自然や天文学といった幅広い興味への体験を学ぶ取組となったと考えている。そのほか、野外活動や動植物の観察など、安全対策も含めての機会の提供に努めていきたい。

社 04) 公民館活動における学習講座を工夫し、交流や生きがいづくりを図ります。

→【愛の2関連】 感染症対策により中止した教室・講座もあったが、感染対策を行いつつ、中央及び各地区公民館それぞれのニーズに合った各種教室等を企画し、地域住民の教養の向上や交流、子どもの体験活動等の実施に努めた。中央公民館では、定期講座11講座と単発講座5回、地区公民館では、定期講座5講座と単発講座41回、そして、山口県立大学サテライトカレッジを1回開催した。また、新たに明治安田生命保険相互会社との連携協定に基づく講座を1回開催した。

社 05) 家庭教育支援チームを強化し、家庭教育に不安を抱える保護者等への相談活動を充実します。

→【夢の5関連】 柳井市家庭児童相談室と連携し、家庭において子育て上の問題が大きくなる前に、各種相談機関とつながることができるよう、相談窓口の連絡先を明記したカードやチラシの配布・設置を行った。これにより、対面相談、電話やインターネットによる相談件数は21回であった。また、小学校6校の就学時健康診断実施の際に、家庭教育に関する情報提供を行った。

社 06) 国木田独歩生誕150周年に合わせ、独歩資料の充実を図ります。

→【愛の2関連】 直筆の書簡、明治24年日記、旧宅や石碑などの国木田独歩に関する資料のデジタルアーカイブ化により、後世に貴重な資産として残すとともに、調査研究や郷土学習などに共有、活用できるシステムの提供を整備した。令和3年11月にWeb上に公開。

社 07) 蔵書の充実やイベントの開催など図書館の利用促進を図ります。

→【愛の2関連】 イベント(柳井図書館まつり)開催時に雑誌のニーズ調査を行い、77人の回答を参考にして購入を行った。8月、新たに「子供向けアニメ映画鑑賞会」を開催した。感染症対策として人数を限定しつつも、柳井図書館、大島図書館ともに図書館まつりを開催し、好評を得た。

社 08) 学校(図書館)司書やボランティア団体との連携を図ります。

→【愛の2関連】 学校司書との連携会議において、連携を進めるうえでの課題点などを協議した。学校用とは別に、学校司書の登録カードを作成するなど、相互の利便性を高めた。図書館まつりでは、読み聞かせボランティア団体などと連携して運営を行った。

《スポーツ・文化》-----

ス 01) スポーツ少年団の啓発活動を工夫し、活性化を図ります。

→【愛の5 関連】 スポーツ少年団団員募集冊子を全児童と市内体育施設へ配布し、各スポーツ少年団のPRを行った。恒例のスポーツ少年団主催の2行事（体力テスト、親子交歓会）は、感染症対策により中止となった。

ス 02) バタフライアリーナをはじめスポーツ施設の利便性向上に向けた整備を図ります。

→【愛の5 関連】 バタフライアリーナの雨漏り修繕、柳井ウエルネスパーク（アデリーホシパーク）の健康遊具改修・修景池清掃、及び南浜テニスコート倉庫・南浜グラウンド倉庫の更新などスポーツ施設を快適に利用できるよう整備を行った。また、感染症対策のため、トイレ手洗器の自動水洗化を図った。

ス 03) 音響設備の優れたサンビームやないの特性を活かし、利用促進に努めます。

→【愛の4 関連】 11月28日（日）、自主文化事業として「スタインウェイを弾く会」を開催。長引くコロナ禍から、貸館事業も含め、利用者が低迷することとなったが、演者からも好評を博する音響設備など、本館の特性を積極的に案内し、新たな利用者の開拓を図りたい。

ス 04) しらかべ学遊館や月性展示館等の展示施設を活用し、郷土の文化財や人物の情報を発信します。

→【愛の6, 愛の7 関連】 しらかべ学遊館において、「独歩生誕150年」展を開催した。令和3年度指定の市有形文化財「木造釈迦如来坐像及び迦葉・阿難尊者立像」、「木造達磨大師坐像及び大権修利菩薩倚像」の2件について説明看板を設置した。

ス 05) 地域の歴史や伝統の研究を深め、郷土愛を深めます。

→【愛の6, 愛の7 関連】 埋蔵文化財発掘調査（松成東遺跡、片山平遺跡）を実施し、郷土資料の収集を行った。また、令和2年度に発掘調査を行った松成西・有実遺跡の調査報告書を刊行し、市内の学校、公民館、図書館等に配布し、成果の周知を図った。令和元年度調査の長尾原・五反田遺跡の展示をしらかべ学遊館で開催した。

《環境整備》-----

環 01) 新型コロナウイルス感染防止策として示された「新しい生活様式」を実践し、校内における感染対策を進めます。

→【4-(2) 関連】 専門家の知見や感染状況等に応じて順次改訂されている文部科学省「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル」に準ずる対応と、感染対策を行ってきている。令和3年度は、施設改善において、小学校3ヶ所のトイレ手洗器自動水栓化のほか、小中学校3校の特別教室空調設備整備、小中学校11校293ヶ所の屋内運動場網戸設置、そして、学校再開に伴う感染症対策として、全自動高圧蒸気滅菌器と滅菌バ

ック用シーラーを各2台整備した。

環 02) 安全で快適な学びの環境づくりのため、小中学校特別教室の空調設備の設置を計画的に進めます。

→【4-(2)関連】 熱中症対策として令和2~10年度にかけ、理科室や音楽室等の特別教室に空調設備を整備してきている。令和3年度は余田小、柳井中及び柳井西中の特別教室17教室に整備した。

環 03) 学校施設の安心・安全対策として、老朽化対策及び非構造部材の耐震化を図るため、学校施設の改修を進めます。

→【4-(2)関連】 学校施設の長寿命化対策として、非構造部材を含む耐震化に取り組んできている。令和3年度は、柳井南小屋内運動場屋根防水改修工事を実施した。並行して実施している空調設備整備やトイレの洋式化に一定の目途がたった時点で、改めて、教室のLED化や建物サッシの断熱化等の長寿命化事業を計画することとしている。

環 04) GIGAスクール構想により整備した通信ネットワーク及び1人1台タブレット端末の適切な維持管理に努めるとともに、ICTを活用した学習環境の整備を進めます。

→【4-(4)関連】 タブレット端末等の取り扱いQ&Aを配布し、入学から卒業まで各自専用の学習ツールとして大切に扱うよう指導している。また、インターネット環境のない家庭においても持ち帰り学習が可能となるよう貸出用ルーターを整備した。令和3年4月に柳井市ICT活用推進プロジェクトチームを立ち上げ、計5回にわたり、効率的に教員のICT活用指導力の向上を図っている。

5 学識経験者の知見

(1) 点検及び評価全般

- ・それぞれの項目が簡潔に表記されており、わかりやすく改善されている。
- ・参考欄が、とても参考になった。
- ・感染対策をしながらも、しっかりと目的に近づける事業展開を行っていると感じた。
- ・全体の評価集計は、半数以上がA評価の結果となり、好ましく受け取っている。
- ・良くも悪くも、評価する側が感じる思いと、評価を受ける側が感じる思いとで、いくつかのズレがあるように見て取れるものがあった。

(2) 取組ごとの知見

【1 自分を愛し、人を愛し郷土を愛する教育の推進】 愛の1～愛の7

- ・人権研修会の開催方法を、市役所等に一堂に集まってもらう参集開催から、事務局職員が学校等に訪問する個別開催に一部変更したとある。痛ましい報道が無くならない社会において、様々な人権課題を、少人数であっても、随時みんなで真剣に話し合い、取り組んでいくことは大切なことと思う。
- ・初めてとなる「子ども向け映画観賞会」の開催は、評価したい。図書館活動は0歳から百歳超えまで対象なので、次は、ぜひ大人向けの映画観賞会も開催されたい。
- ・最近、街なかにおいて、ほとんど子どもを見かけることがなくなった。その中での30回もの巡視は、それ自体が目的になっているのではとも受け取れる。いまの青少年育成の課題から本筋がズレていないか、あらためて街頭補導の目的やあり方を焦点に評価をされては如何か。
- ・小中高生徒指導連絡協議会での校種間の話し合いが、有意義に反映されるよう努められたい。
- ・サンビームの女性トイレには、バック掛けのフックが取り付けられているが、高い位置にあり、腕を上げにくい高齢者などは苦慮している。取付場所と高さに配慮されたい。
- ・成果が0に対して評価がDとなることへの理解はできるが、一方で、コロナ禍において、やってはいけないことをやらないことは正しいことであり、やらない時に、施設を整備したり、備品の補充や充実に力を入れていることは評価したい。
- ・しらかべ学遊館ほか各施設の活動では、情報発信などの新たな取組に期待したい。

【2 夢をはぐくむスクール・コミュニティづくりの推進】 夢の1～夢の6

- ・学校運営協議会が発足し数年が経過する中において、今後の充実した姿をどう見据えているのか、以前と比べ、どう進んだのか、分かりづらいところがある。
- ・学校運営協議会を開催するにあたって、校長と会長等との事前の話し合いができていないか。初めての会長や参加者がいる中で、それまでの意見や取組を踏まえ、ある程度の進め方を話し合った上で開催しないと、学校運営協議会を開催し、校長の説明を聞いただけで良しとなっ

てしまう。会議以外の場においても、それぞれがしっかり反映できる場にされたい。

- ・学校と地域の取組が紹介されているスクール・コミュニティだより「こやらい」を、もっと皆さんに周知されたい。
- ・子どもたちは一瞬で変換するパソコンに慣れる一方で、形として文字を認識してしまう傾向も見受けられ、文字や数字等の書き順がおざなりになっているように思う。基本的なこととして、指導に努められたい。
- ・夏休み勉強会では、中高生が親身になって小学生を教え、その姿を見てたいへん喜ばしく感じた。ただ、中高生の、時代に応じた指導の方法を評価できる一方で、押さえておくべき基本的な指導を要するところもあるように思う。事前のレクチャーをしては如何か。
- ・ボランティアが学校に入る場合、学校が気を遣って比較的自由に指導してくださいとのスタンスにあるように思う。全員が指導に長けているわけではないので、事前のレクチャーや事後の話合いなどで、互いに守るべきルールや内容等の確認は必要と思う。
- ・個性に応じることは大切なことではあるが、教育を子ども側だけのものにしてしまうと義務教育がぶれてしまう。人としてしっかり身に付けるべき基本的なことは、しっかり押さえる必要がある。

【3 志を実現させるための力の育成】 志の1～志の8

- ・紙の教科書が、電子の教科書に変わりつつある。タブレットありきでの授業に陥らないように、まずは授業そのものを、きちんと仕組んで、筋立てて、そこに乘せていかないと、しっかりとした授業展開につながらないと思う。
- ・国連において、インクルーシブな学びの実現を求める勧告があったと聞く。今後、国がどういう方向性を示すかわからないが、増加傾向にある特別な支援を必要とする児童生徒が、安全で、安心して学習できる環境づくりへの配慮には努められたい。
- ・不登校やいじめは、大きな問題であるので、しっかり取り組まれたい。
- ・協議会等の議題として、SNSについて取り上げられたい。
- ・不登校で悩んでいる保護者がいれば役に立ちたいとの思いを持つ人たちがいるので、何かあれば声掛けをされたい。

【4 基本方針を支える環境整備】 (1)～(5)

- ・児童生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、施設や設備の改善には適宜努められたい。
- ・持ち帰り学習を含め、タブレット端末の取り扱いには十分留意するよう指導されたい。

6 今後の取組

制約にしばられたコロナ禍から、少しずつ平穩を取り戻しつつあります。

どういう時代背景にあっても、子どもたち一人一人にとっては、貴重な日常の時間が流れ、その中でも学校生活は、努めて有意義な経験を育む大切な時期となります。

そうした中において、本市の子どもたちに健やかな成長を担保するには、不登校やいじめといった様々な子どもたちを取り巻く環境のみならず、働き方改革への取組が必須の教職員を取り巻く環境、さらには、時代の変化に適切に対応できる施設環境など、多くの課題を、一つ一つ解決していくことが、行政の責務となります。

このたびの評価について、学識経験者から得た貴重な知見をもとに、あらためて確認、改善を図り、取組に反映してまいりたいと考えます。



作成：山口県柳井市教育委員会